

◇2018年度実施の海外教育旅行の実態とまとめ（中・高）＜抜粋＞◇

この調査は、2018（平成30）年度に実施された中学校・高等学校の教育旅行に関するものである。

なお、調査は全国の国立・公立・私立等の中学校・高等学校を対象とし、下表の調査校を抽出し回答を依頼した。

設置者名	国立	公立	私立等	合計
全国校数	86	12,980	2,101	15,167
抽出校数	86	3,969	1,975	6,030
回答校数	20	1,521	565	2,106
回答率%	23.3%	38.3%	28.6%	34.9%

※回答率は、抽出校数に対する回答校数の割合

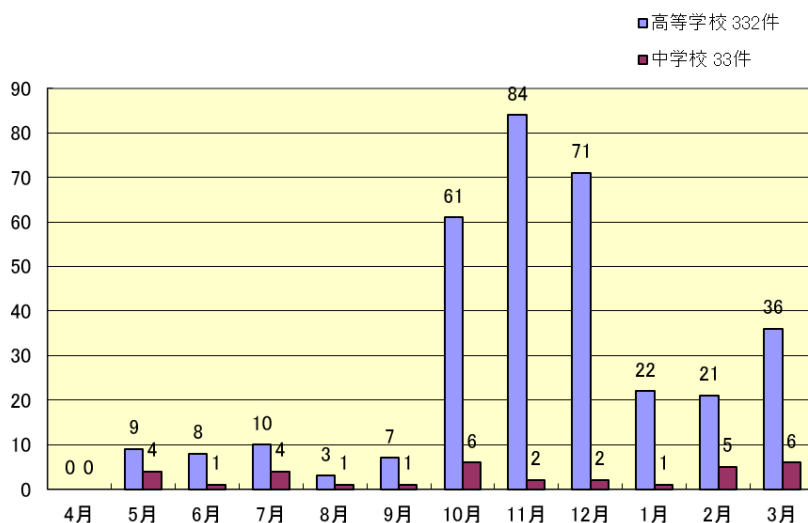
調査項目は次の通りである。

- (1) 実施学年 (2) 出発月 (3) 宿泊日数 (4) 行事種別 (5) 訪問国名・地域名
- (6) 宿泊都市 (7) 訪問都市 (8) ～ (10) 参加生徒数・引率教員数・合計人数
- (11) 参加形態 (12) 生徒一人当たり旅行費用 (13) 学校間交流の具体的内容
- (14) 海外教育旅行実施に当たっての課題や問題点

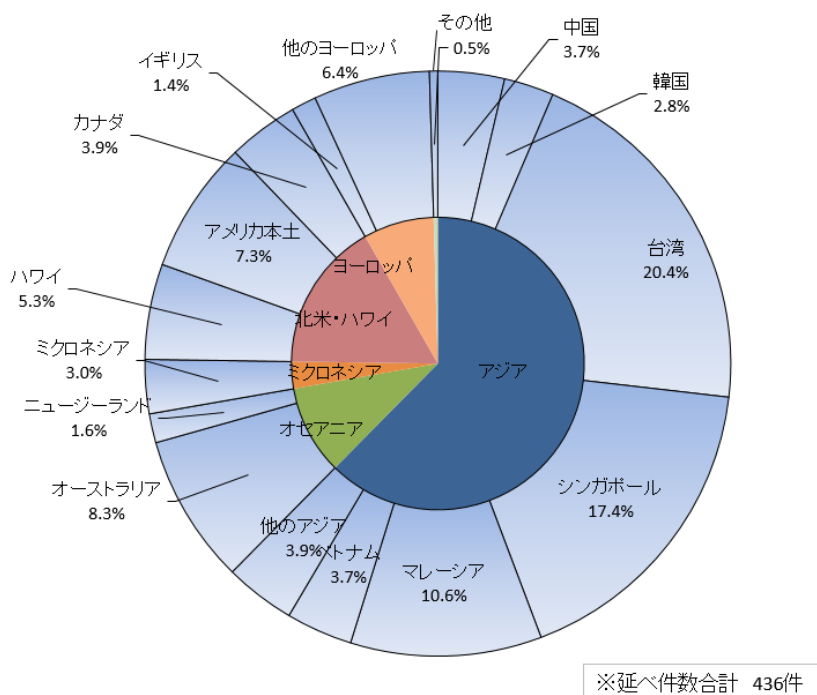
ここではその一部を抜粋して紹介する。なお詳細については「教育旅行年報データブック2019」（発売中）をご覧ください。

1. 海外修学旅行の実施月（件数）

実施のほとんどが私立校である中学校は、時期が分散している。高等学校では件数ベースの65.1%が10月～12月での実施。特に公立校はこの時期への集中傾向が強い。3学期の実施も比較的多く、高等学校では2学期（全件数の67.2%）、3学期（同23.8%）での実施が大勢である。

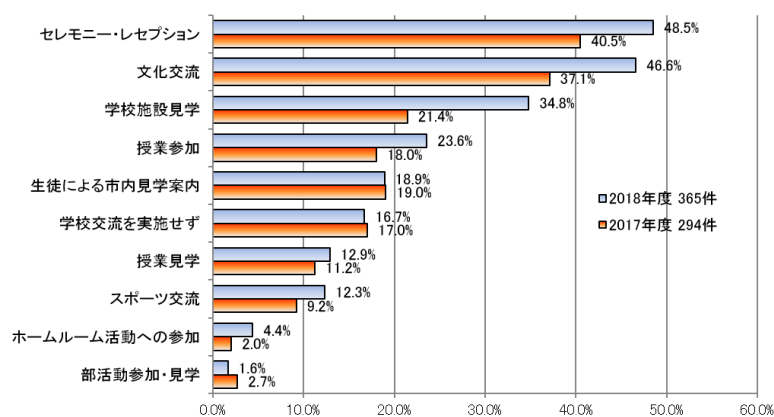


2. 海外修学旅行の訪問国・地域別割合（件数比）



エリア別件数シェア（グラフ3）では、アジア計のシェアが62.7%と、前年の63.2%とほぼ同じで、各エリアの割合もほぼ前年同様の結果となった。

3. 海外修学旅行の学校間交流内容（複数回答）



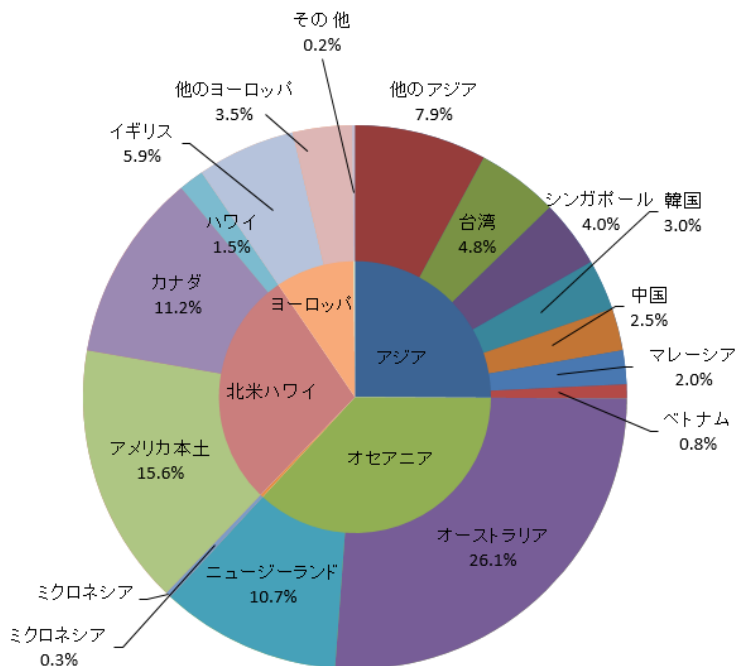
※海外修学旅行の実施件数を分母とした比率

海外修学旅行実施件数を分母とした比率で、半分近い実施割合となっている「セレモニー・レセプション」や「文化交流」をはじめ、ほとんどの項目で前年調査より実施割合が増加している。修学旅行における学校間交流を少しでも内容の充実したものにしようという学校の意向が表れている傾向ではないだろうか。

4. 修学旅行以外の海外教育旅行について

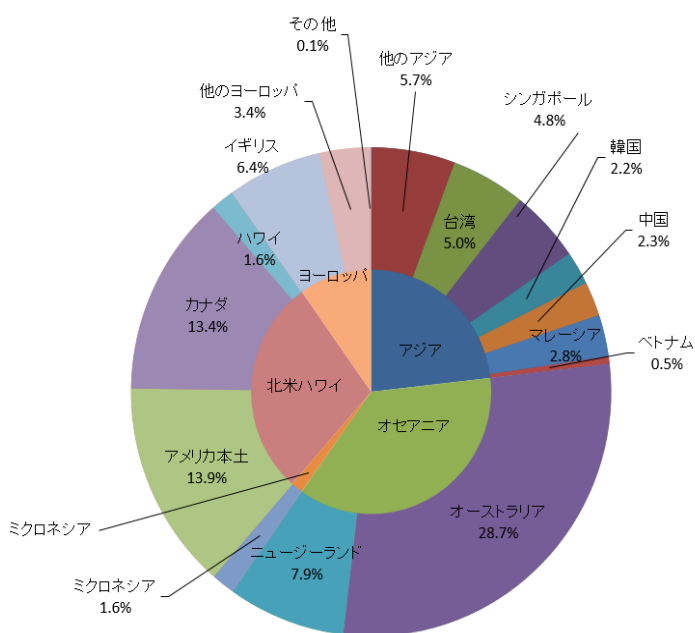
※1回の旅行で訪問国・地域が複数になる場合は、それぞれに件数、人数をカウントした。

修学旅行以外の海外教育旅行の訪問国・地域別割合（延べ件数比）（計 598 件）



修学旅行以外の海外教育旅行の訪問国・地域別割合（延べ人数比）

（計 15,175 人）



海外語学研修旅行の主な訪問都市

※訪問都市：宿泊都市と見学都市の合計

	順位			都市	国・地域	今回 件数
	今回	前回	前々回			
1	4	3	シドニー	オーストラリア	44	
2	1	1	ブリスベン	オーストラリア	43	
3	2	2	バンクーバー	カナダ	35	
4	6	5	ロンドン	イギリス	21	
5	10	6	ゴールドコースト	オーストラリア	20	
	11	7	セブ	フィリピン	20	
7	2	4	オークランド	ニュージーランド	18	
8	6	5	ボストン	アメリカ	16	
9	—	—	サンフランシスコ	アメリカ	12	
	—	—	シンガポール	シンガポール	12	
	8	8	ビクトリア	カナダ	12	
12	—	—	ロサンゼルス	アメリカ	11	

修学旅行以外の海外教育旅行計 598 件中 338 件（56.5%）が語学研修旅行で、そのほとんどすべてが英語研修である。その他の区分の旅行も英語学習を兼ねる場合が多いため、修学旅行に比して英語圏志向は強い。延べ人数比では、オーストラリアが 28.6%と本年も一番多く、アメリカ本土（13.8%）、カナダ（13.3%）、ニュージーランド（7.9%）、イギリス（6.4%）、と続く。「他のアジア」は総件数 47 件中 29 件がフィリピンである。事前・事後のオンライン教育も可能な英語の語学研修先として、高い人気がある。

語学研修旅行における訪問都市では、顔ぶれは例年と大きく変わらないが、フィリピンのセブが年々順位を上げている。また、アメリカのサンフランシスコやロサンゼルス、シンガポールなどが新たにランクインしている。